



満開！

お花見ステーション

文・写真 Ⅱ 鉄道写真家 中井 精也

【表紙写真】

郡山駅といわき駅を結ぶ磐越東線の夏井駅もお花見ステーション。夏井川の兩岸5kmにわたり1000本のソメイヨシノが咲き誇る夏井千本桜も望めます。見頃は遅く4月下旬

(2014.4.27/磐越東線 夏井駅)



ソメイヨシノとハナモモに飾られた温泉の玄関駅。見頃は4月中旬～下旬
(2017.4.30/会津鉄道 湯野上温泉駅)

寒かった冬も終わり、いよいよ花咲く春が近付いてきます。春の旅にはいろいろなカタチがありますが、鉄道写真家である僕のオススメは、列車に乗って行くお花見ステーション！ 街の入り口でもある日本の駅には、玄関を美しく飾ろうと、たくさんさんの桜が植えられています。ふだんは寂しい駅も、春になると桜が駅を飾り、とても贅沢な光景に変わります。

残念ながら今年は、みんなで出かけてお花見しながらどんちゃん騒ぎは難しそう。今回は、僕のオススメお花見ステーションを紹介します。誌面上でのお花見をお楽しみください。

茅葺き屋根の駅舎がお出迎え 奥会津の桜駅

福島県を走る会津鉄道の湯野上温泉駅（上の写真）は、東北の駅百選にも選ばれた、とても絵になる駅です。まだ雪が残った山々をバックに、駅構内を包み込むよう

にソメイヨシノが咲き乱れ、ハナモモも鮮やかなピンク色を添えてくれます。観光名所「大内宿」をイメージした駅舎の屋根は、なんと全国でも珍しい茅葺きづくり。駅舎内には囲炉裏もあり、旅情満点！ 温泉の玄関駅だけに、ホーム横には足湯もあり、無料で温まりながら、桜と列車を眺めることもできます。

また、会津鉄道には「お座敷列車」と「展望列車」と「トロコ列車」を合体させた、ちよつと欲張りな「お座トロ展望列車」が運行されるので、奥会津の車窓風景を楽しみながら、お花見ステーションを目指してみたいいかがでしょう？

大都会東京の穴場スポット 最後の都電と桜の風景

東京にも桜の名所はたくさんありますが、オススメは都電荒川線の荒川二丁目電停付近。線路と荒



桜吹雪の都電を望む。見頃は3月下旬～4月上旬 (2015.4.1/都電荒川線 荒川二丁目駅)



ちいさな春をつかまえた!
(2015.4.1/都電荒川線 荒川二丁目駅)



まるで能の舞台のようなつややかな夜桜。見頃は4月上旬
(2019.4.4/御殿場線 山北駅)

川自然公園の間に桜並木が続き、その下を東京で唯一生き残った都電が一生懸命走ります。この日も3ページ上の桜吹雪を狙っている、ホームにおじいさんとお孫さんがやってきました。ちょうどその時風が吹き、目の前に飛んできた桜の花びらを、お孫さんが見事にキャッチ！ 欲しいと思ったものにまっすぐに手を伸ばせる子どもの素直さが、少しまぶしく見えた53歳の僕でした(笑)。

そうそう、この駅からわずか3駅先の三ノ輪橋電停には、僕のギャラリー「ゆる鉄画廊」がありますので、ぜひお花見のついでにお立ち寄りください(笑)。

幻想的な夜桜に 酔いしれて ボリュウム満点の 桜駅

続いては神奈川県にある御殿場線の山北駅。こちらも駅から線路に沿って桜並木が続いており、かなりボリュウム感のある桜を愛で

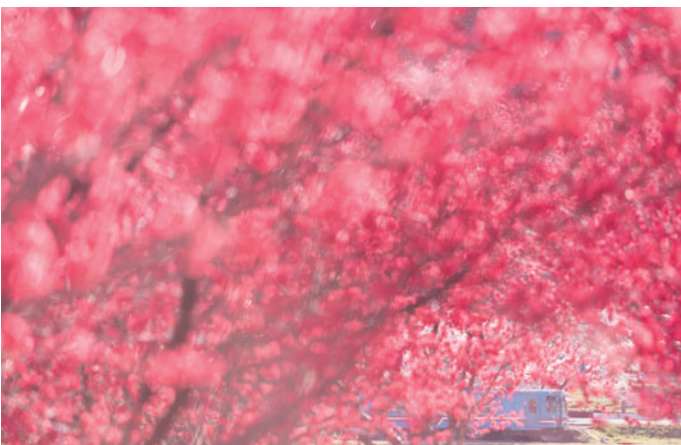
ることができます。昼間もちろんキレイですが、夜にはライトアップが施され、現実とは思えない幻想的なシーンになります。3ページ左下の写真は、夜空に映える桜を主役に、列車は副題として写したものです。まるで能の舞台のようなつややかな夜桜の風景に、ほれぼれしながらシャッターを切りました。

淡墨桜へ向かう 列車で見つけた 珠玉のお花見 ステーション

岐阜県にある桜の名所といえば「淡墨桜」が有名ですが、その最寄りの樽見駅へ向かう樽見鉄道の沿線にも、隠れた桜の名所がたくさんあります。ピカピカの新入生



ピカピカの春が来た!
(2004.4.13/樽見鉄道 谷汲口駅)



ハナモモのカーテンの向こうに。見頃は4月上旬 (2019.4.9/樽見鉄道 高科駅)



可愛い桜がお出迎え。見頃は3月下旬
(2019.3.30/筑肥線 駒鳴駅)

映画のロケにも 使われた 知る人ぞ知る 春の絶景

最後に紹介するのは佐賀県にある筑肥線の駒鳴駅(4ページ左下)。ここは松山ケ

ンイチさん主演の映画「僕達急行A列車で行こう」のロケ地にもなった、知る人ぞ知る駅。可愛いホームの横には立派なソメイヨシノがあり、周囲に何もない駅を際立たせてくれます。菜の花と桜に飾られた風景に、菜の花色の列車がよく似合います。こんな列車で、桜の咲く駅に、ぶらり途中下車してみたいと思いませんか?

今回ご紹介した駅のほかに、全国にはまだまだたくさんのお花見ステーションがあります。鉄道旅なら、飲酒だってOK。ぜひスマホのスイッチはオフにして、駅のベンチに座ってぼーっと桜を眺めれば、きっと疲れたココロも、癒やされるはずですよ。

〈なかい せいや〉
1967年東京生まれ。鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道に関わる全てのものを被写体として独自の視点で撮影のほか、講演やテレビ出演など幅広く活動している。著書・写真集に『1日1鉄!』『デジタル一眼レフカメラと写真の教科書』など多数。株式会社フォート・ナカイ代表。公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員、日本鉄道写真作家協会(JRPS)会員。